

平成29年度復興と未来を担うグローバルリーダー育成推進事業 会津大学授業「会津の歴史と文化」参加

昨年度に引き続き、会津大学 ICT グローバルプログラムの一環として開講される授業「会津の歴史と文化」に本校生徒が参加しています。この授業は本来留学生向けに開講されるもので、会津の歴史や文化に関する様々なテーマの授業が英語で行われます（日本人学生も受講しています）。今年度は本校から1学年の希望者が参加しています。

平成29年12月15日（金）

テーマ：会津の歴史—会津藩と戊辰戦争」
講師：会津大学 文化研究センター 青木 滋之 上級准教授
本校からの参加生徒：5名

この日（第4回授業）が会津高校からの初めての参加となりました。講義室に入ると、さっそく留学生と日本人大学生からなるグループに一人ずつ入れていただき、一緒に聴講しました。

講師は3日前に本校で論文執筆に関する講義をしてくださった青木 滋之 上級准教授で、会津の歴史について、戊辰戦争に至った経緯を中心に英語で講義されました。講義中に何度か先生から質問が出されましたが、地元の高校生としてしっかりと答える頼もしい姿が見られました。



平成29年12月22日（金）

テーマ：会津の偉人
講師：会津大学 山内 和昭 上級准教授、光永 祐司 准教授
本校からの参加生徒：3名

この日の授業では、1月9日に「会津の偉人」について発表を行うための準備作業を行いました。本校生徒は留学生と日本人学生からなるグループに振り分けられ、まずは山内准教授が会津の偉人について紹介されました。続いて各グループでどの偉人について発表するかを決めて、作業手順などを話し合いました。一人ずつグループに入った本校生徒は初めは戸惑い気味でしたが、大学生や留学生にリードされて一生懸命参加していました。



平成30年1月9日（火）

テーマ：会津の偉人（プレゼンテーション）

講師：会津大学 山内 和昭 上級准教授 光永 祐司 准教授

本校からの参加生徒：6名

この日の授業では、昨年最後の授業で作ったグループごとに、それぞれ選んだ会津の偉人（野口 英世、松平 容保、山本 八重、保科 正之）に関するプレゼンテーションが行われました。本校からの参加者のうち、前回も参加した生徒は発表に加わりました。また、前回参加しなかった生徒はオブザーバーとしての参加になりましたが、質問をするなどして積極的に参加しました。



平成30年1月16日（火）

テーマ：日本・会津の食文化

講師：会津大学短期大学部 加藤 亮 先生

会津大学スーパーグローバル推進室 加藤 絵里子 先生

本校からの参加生徒：4名

この日の授業では、まず講師の2人の先生方から日本の食事スタイルや理想的な栄養バランスについてのお話をいただきました。その後、食品サンプルに埋め込まれたICタグを読み取って各栄養素のグラフとトータルの栄養バランスが表示されるSATシステムを使って、理想的な献立をグループごとに考えました。会津のこづゆや馬刺しなどのサンプルもあり、本校生徒が留学生に説明する場面もみられました。



平成30年1月19日（金）

テーマ：会津の観光

講師：テクノアカデミー会津 観光プロデュース学科 真田 風 先生

本校からの参加生徒：4名

今回の授業では、テクノアカデミー会津で観光街づくり論等を担当されている真田 風 先生より、会津の観光地についてご紹介いただきました。各観光地については知っていることが多かったものの、写真共有サイトに投稿された膨大な写真群をもとに観光地の見どころを地図上に示す「観光ポテンシャルマップ」や、Google ストリートビューにガイド役のキャラクターを重ね、ウェブ上で仮想ツアーを行うことができる「だれでもガイド！」を用いた観光地の紹介は、会津の観光を考える生徒たちにとってとても新鮮なものでした。



平成30年1月26日（金）

テーマ：会津農書と ICT

講師：株式会社 会津ラボ 代表取締役 久田 雅之 氏

本校からの参加生徒：4名

今回は、1学期に本校「地元先端企業による講演会」においてご講義いただいた株式会社会津ラボ代表取締役の久田 雅之 氏に、ICT と会津の農業等についてお話をいただきました。1学期の講義と重なる部分もありましたが、予備知識があったことで、英語のみの講義でも理解しやすかったのではないのでしょうか。最後の質疑応答では、本校生徒が AI と人間の共生について質問しました。



平成30年2月6日（金） プレゼンテーション

会津大学授業「会津の歴史と文化」の最後の授業では、グループプレゼンテーションが行われました。会津大学のご厚意で、本校生徒もこの授業の中でプレゼンテーションをさせていただきました。

まずは、会津弁についての課題研究を行った生徒が、「なぜ若者は会津弁を使いたがらないのか」というタイトルで発表を行いました。彼女は自身が行った調査の結果を踏まえて、地元の言葉に誇りを持つべきだと主張しました。発表後、留学生からのリクエストに応じて、会津弁をいくつか紹介しました。



次に、アメリカ研修に参加する生徒の中から4名の代表生徒が、アメリカで行うプレゼンをさせていただきました。まず1人の生徒が導入として福島の復興について問題を提起し、残りの3名がそれぞれ、国、地元企業、地域住民の視点から復興への提案を発表しました。発表後、留学生の方からは「震災のこと、復興のことについてよくわかった。」とコメントをいただきました。



自分たちの発表が終わると、今度は会津大学生によるグループ発表を聴講しました。5つのグループが、それぞれいちばん伝えたい会津について発表しました。留学生の、身振り手振りを使って訴えかけるような発表の姿勢は、本校の生徒たちにとって大変参考になるものでした。福島の復興や会津について、留学生の意見を知る貴重な機会にもなりました。



最後に、会津大学副学長で、グローバル推進本部長の程子学教授より講評をいただきました。本校生徒の発表は、英語もスライドも素晴らしかったというお褒めの言葉とともに、発表者の経験を盛り込むことでさらに魅力的なプレゼンテーションになるとアドバイスをいただきました。

